

# 水辺という地域資源を活かした地域魅力向上

山梨大学 佐々木邦明, 北村眞一, 武藤慎一  
末木祐多, 青沼直弥  
小原拓也, 別所佳奈

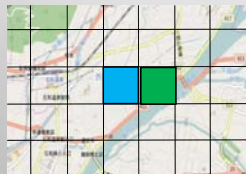
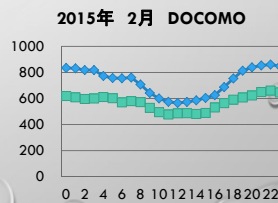
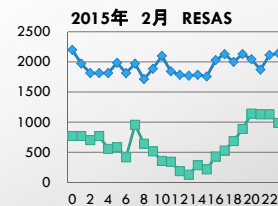
## 目的と実施内容

- 山梨県の観光資源や景観要素の一つとして、水辺の活用が望まれる
- 水辺の資源調査、RESAS、アンケート調査を行い、観光客のニーズ・特性の把握、観光客への経済波及効果を高める整備を展開する
- 実施した内容
  - 学生による街歩きとデータ収集
    - 留学生を含めた徒歩による回遊の時間測定と魅力の検討
  - 他の地域での水辺の活かし方事例
    - 高山・金沢での水辺の活かし方調査
  - ビッグデータを用いた分析
    - RESASを用いた分析
    - ドコモインサイトデータの比較検討
  - アンケート調査
    - 宿泊客の行動調査
    - 来訪客の嗜好に基づく経済効果



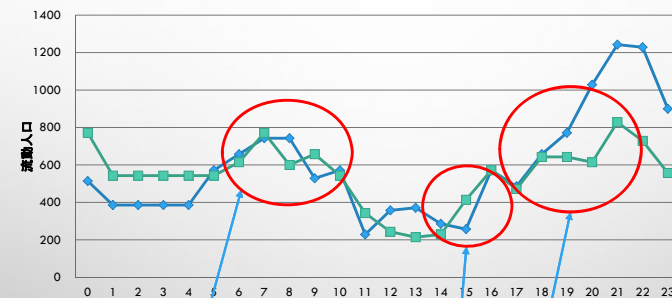
## RESASの人口流動についての検討

- 精度検討
  - DOCOMOインサイトデータと比較
- 全体数に違い
- どちらからも昼間に旅館街の人口が減っている
- 傾向の比較はRESASで検討可能



## 近津用水周辺の流動人口

2014年 10月 近津用水周辺



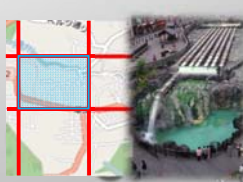
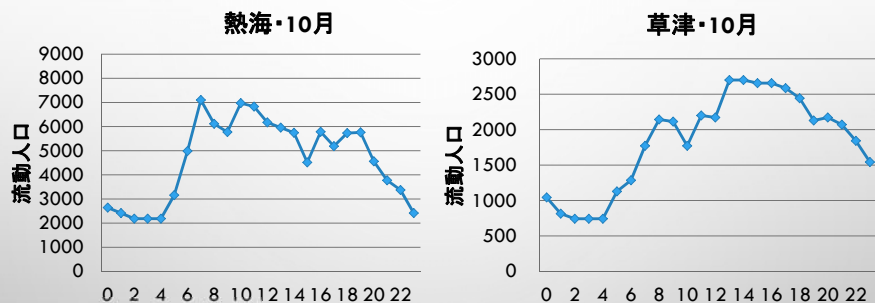
深夜に比べて朝の時間帯の流動人口が大きく、その後は大きく減少している。

14時から16時、17時からにかけての二回人口の増加がある。

温泉街内の交通

チェックインの時間

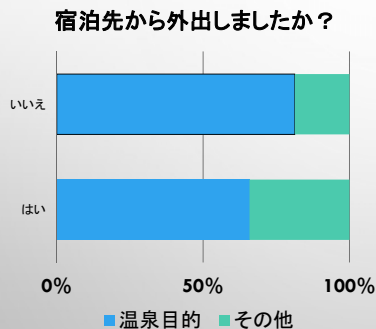
# 熱海・草津の流動人口



# アンケート調査の分析

宿泊客調査  
駅前インタビュー

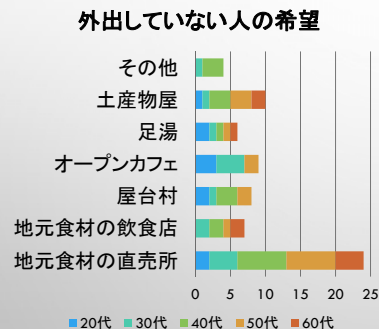
## 宿泊客アンケート(1)



- 全体の人数の4割程度しか外出はしていない
- 外出していない来訪者の8割は温泉目的客である
- 外出する人は、しない人に比べて多くのお金を使う

この層の外出を促すには？

## 宿泊客アンケート(2)

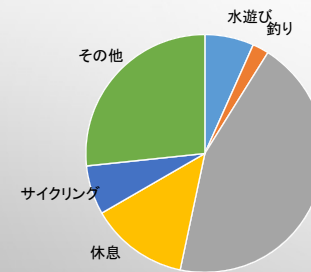


- 外出していない人
  - 地元食材の直売所を希望
  - 他は同程度
- 外出した人
  - それほど大きな希望は無い
  - 相対的には屋台やカフェなど、滞在できるような施設を希望

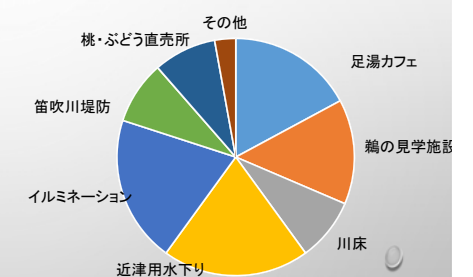


# インタビュー(1)

笛吹川訪問の目的



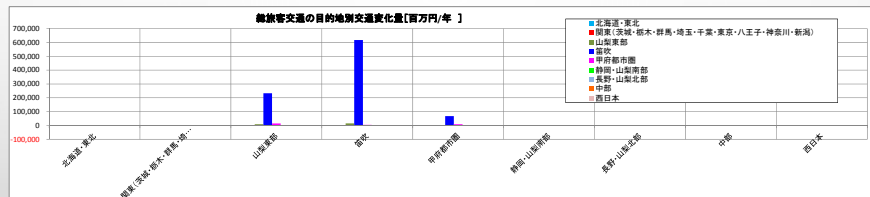
興味のある水辺リング構想



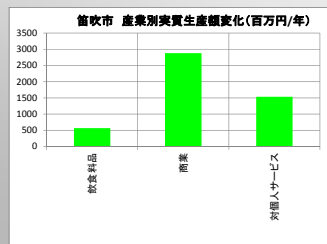
JR石和駅周辺にて、聞き取り方式での調査  
総数45件  
2015年12月17日(木)、23日(水)に実施

## 経済効果の計測

訪問客数変化量



生産額変化(笛吹市)



※アンケート結果より、笛吹市への訪問客が、関東:1.45倍、山梨県:1.4倍、甲府:1.6倍、甲府市:2倍 となった場合の影響を地域経済モデルにより計測。

県内(山梨県東部、甲府市等)からの訪問客が増加。  
関東からの増加率は高いが、増加量は多くない。

**経済効果予測**  
68.5億円/年 (一人:95,600円/年)

## 地域回遊の基盤としての景観づくり

- ・快適な回遊の石和らしい水辺景観→笛吹川・平等川・近津用水・細水路網と街並・山並等
- ・四季を楽しめる景観の変化→緑・桃・桜・柳・百日紅・紅葉・柿・山茶花、果樹と花壇等
- ・時間と場所を感じる景観→歴史・温泉場の風情(八田書院・足湯・民家・旅館・果樹園等)
- ・地域性回遊拠点→街角説明板、まちなかミュージアム群、果樹園食堂等
- ・景観を演出する組織→花火・ライトアップ・イルミなど観光協会・NPO・案内人等への期待



## 今年度のまとめ

- RESAS・ビッグデータ
  - にぎわう温泉地と比較して日中の滞在人数が少ないことは明確
  - 車の進入と思われる増加がみられる
  - RESASの数値は他地域・季節などの比較で活用可能
- アンケート・インタビュー
  - 外出しない客が6割、温泉目的では8割
  - 複数主体の協同によるインセンティブ
    - スマートトラッカーと温泉等
  - 徒歩圏内でのアクティビティ配置
- 地域回遊基盤
  - 快適な回遊の石和らしい水辺景観
  - 四季を楽しめる景観の変化
  - 時間と場所を感じる景観
  - 地域性回遊拠点
  - 景観を演出する組織
  - 距離を感じさせないネットワーク構成と仕掛け